

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 22 年 5 月 20 日 (2010.5.20)

【公表番号】特表 2009-534478 (P2009-534478A)

【公表日】平成 21 年 9 月 24 日 (2009.9.24)

【年通号数】公開・登録公報 2009-038

【出願番号】特願 2009-504604 (P2009-504604)

【国際特許分類】

C 0 8 J 9/14 (2006.01)

C 0 8 G 18/40 (2006.01)

C 0 8 G 18/38 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 9/14 C F F

C 0 8 G 18/40

C 0 8 G 18/38 F

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 3 月 29 日 (2010.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アニオンの親水性化されたポリウレタン水性分散体 (I) を含有する組成物を発泡させ、および化学的架橋を伴わずに物理的に乾燥させることを含んでなる、創傷接触材料の製造方法。

【請求項 2】

ポリウレタン分散体 (I) は、スルホネート基のみによってアニオンの親水性化されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

分散体 (I) は、

A) イソシアネート官能性プレポリマーを、

A 1) 有機ポリイソシアネート、

A 2) 400 ~ 8000 g/mol の範囲の数平均分子量および 1.5 ~ 6 の範囲の OH 官能価を有するポリマーポリオール、および

A 3) 必要に応じて、62 ~ 399 g/mol の範囲の分子量を有するヒドロキシル官能性化合物、および

A 4) 必要に応じて、イソシアネート反応性の、アニオン性または潜在的アニオン性および必要に応じて非イオン性の親水性化剤

から製造すること、および

B) 次いで、その遊離 NCO 基を

B 1) 必要に応じて、32 ~ 400 g/mol の範囲の分子量を有するアミノ官能性化合物と、

B 2) アミノ官能性の、アニオン性または潜在的アニオン性の親水性化剤

と鎖延長によって、完全にまたは部分的に反応させること、および

該プレポリマーを段階 B) 前、段階 B) 中または段階 B) 後に水中に分散することによって得られることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

発泡させるべき組成物は、助剤および添加剤物質（ⅠⅠ）として、フォーム形成剤および安定剤としての脂肪酸アミド、スルホスクシンアミド、ヒドロカルビルスルホネートまたはスルフェート、アルキルポリグリコシドおよび／または脂肪酸塩を含有することを特徴とする、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 5】

スルホスクシンアミドとアンモニウムステアレートの混合物をフォーム形成剤および安定剤として用い、該混合物は 70 重量％～50 重量％のスルホスクシンアミドを含有することを特徴とする、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の方法によって得られる創傷接触材料。

【請求項 7】

微孔質の連続気泡構造および乾燥状態で 0.4 g/cm^3 以下の密度を有することを特徴とする、請求項 6 に記載の創傷接触材料。

【請求項 8】

100～1500％の範囲の、DIN EN 13726-1 第3.2章による生理食塩水吸収性（乾燥フォームの質量を基準とした、取り込まれた液体の質量）および $2000 \sim 8000 \text{ g/24 h} \times \text{m}^2$ の範囲の、DIN EN 13726-2 第3.2章による水蒸気透過率を有することを特徴とする、請求項 6 または 7 に記載の創傷接触材料。

【請求項 9】

活性成分をさらに含有することを特徴とする、請求項 6 ～ 8 のいずれかに記載の創傷接触材料。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0139

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0139】

【表 2】

表 2

フォーム番号	吸収率 ¹⁾ [秒]	自由吸収性 ²⁾ [g/100cm ²]	MVTR ³⁾ [g/m ² ×24h]
9a	決定していない	23.1	4300
9b	決定していない	19.2	5000
10	3	28.4	4700
11a	4	20.6	4300
11b	14	18.3	4300
12a	4	24.7	4800
12b	7	26.7	4500
13a	5	25.5	4800
13b	7	23.1	4100
14	4	21.3	決定していない

¹⁾ フォームへの（蒸留水の）滴下の完全な浸透に対する時間；²⁾ DIN EN 13726-1 第3.2章に従って決定された生理食塩水の吸収性（9個に代えて5個の試験試料）；³⁾ DIN EN 13726-2 第3.2章に従って決定された水蒸気透過率

本発明の好ましい態様は、以下を包含する。

[1] アニオンの親水性化されたポリウレタン水性分散体 (I) を含有する組成物を発泡させ、および化学的架橋を伴わずに物理的に乾燥させることを含んでなる、創傷接触材料の製造方法。

[2] ポリウレタン分散体 (I) は、スルホネート基のみによってアニオンの親水性化されていることを特徴とする、[1] に記載の方法。

[3] スルホネート基は、対イオンとしてアルカリ金属カチオンを有することを特徴とする、[2] に記載の方法。

[4] ポリウレタン分散体 (I) は、固体樹脂を基準に、固体樹脂 100 g あたり 0.1 ~ 1.5 ミリ当量の、アニオン性基または潜在的アニオン性基を含むことを特徴とする、[1] ~ [3] のいずれかに記載の方法。

[5] 分散体 (I) は、この中に存在するポリウレタンを基準として 55 重量% ~ 65 重量% の範囲の固形分を有することを特徴とする、[1] ~ [4] のいずれかに記載の方法。

[6] 分散体 (I) は、

A) イソシアネート官能性プレポリマーを、

A 1) 有機ポリイソシアネート、

A 2) 400 ~ 8000 g / mol の範囲の数平均分子量および 1.5 ~ 6 の範囲の OH 官能価を有するポリマーポリオール、および

A 3) 必要に応じて、62 ~ 399 g / mol の範囲の分子量を有するヒドロキシル官能性化合物、および

A 4) 必要に応じて、イソシアネート反応性の、アニオン性または潜在的アニオン性および必要に応じて非イオン性の親水性化剤

から製造すること、および

B) 次いで、その遊離 NCO 基を

B 1) 必要に応じて、32 ~ 400 g / mol の範囲の分子量を有するアミノ官能性化合物と、

B 2) アミノ官能性の、アニオン性または潜在的アニオン性の親水性化剤

と鎖延長によって、完全にまたは部分的に反応させること、および

該プレポリマーを段階 B) 前、段階 B) 中または段階 B) 後に水中に分散することによって得られることを特徴とする、[1] ~ [5] のいずれかに記載の方法。

[7] 発泡させるべき組成物は、助剤および添加剤物質 (II) として、フォーム形成剤および安定剤としての脂肪酸アミド、スルホスクシンアミド、ヒドロカルビルスルホネートまたはスルフェート、アルキルポリグリコシドおよび / または脂肪酸塩を含有することを特徴とする、[1] ~ [6] のいずれかに記載の方法。

[8] スルホスクシンアミドとアンモニウムステアレートの混合物をフォーム形成剤および安定剤として用い、該混合物は 70 重量% ~ 50 重量% のスルホスクシンアミドを含有することを特徴とする、[7] に記載の方法。

[9] [1] ~ [8] のいずれかに記載の方法によって得られる創傷接触材料。

[10] 微孔質の連続気泡構造および乾燥状態で 0.4 g / cm³ 以下の密度を有することを特徴とする、[9] に記載の創傷接触材料。

[11] 100 ~ 1500 % の範囲の、DIN EN 13726 - 1 第 3.2 章による生理食塩水吸収性 (乾燥フォームの質量を基準とした、取り込まれた液体の質量) および 2000 ~ 8000 g / 24 h × m² の範囲の、DIN EN 13726 - 2 第 3.2 章による水蒸気透過率を有することを特徴とする、[9] または [10] に記載の創傷接触材料。

[12] 活性成分をさらに含有することを特徴とする、[9] ~ [11] のいずれかに記載の創傷接触材料。